

森の民話茶屋通信 Vol.9

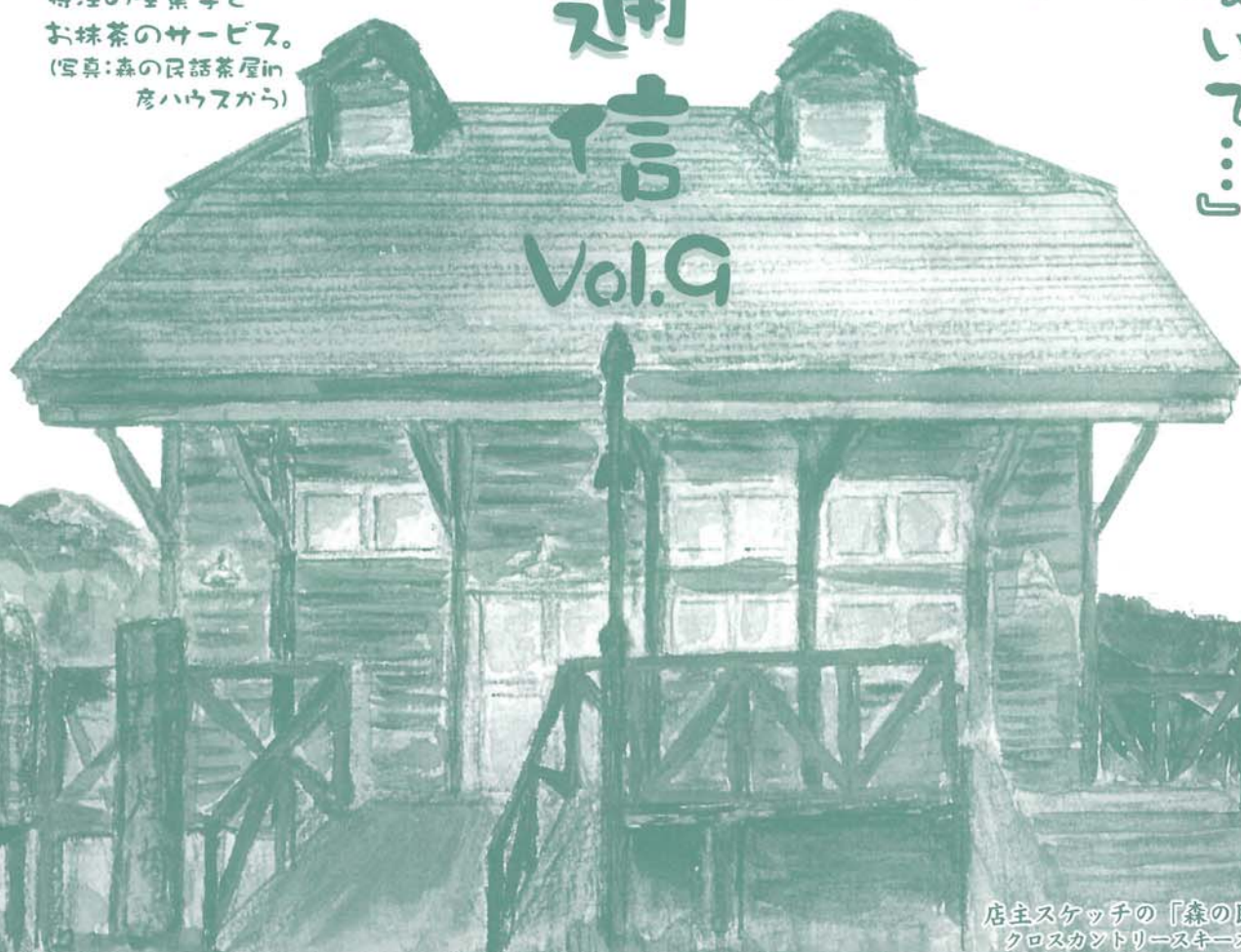
福島県地域づくりサポーター事業
『ふるさと民話とふるさと森をつなぐ』



特注の生菓子とお抹茶のサービス。
(写真:森の民話茶屋in彦ハウズから)



三味線の音をバックに“書”
民話のインスピレーションを文字に。



店主スケッチの「森の民話茶屋」
クロスカントリースキーステーション

店主が語る! 村のオウチ Vol.8

風のポイントを探して大玉村に風力発電の家を作った
画家 柴田佳央さん(58才)を訪ねて



常に少しでも良い方向に。

高いアンテナの上に翼の無い模型飛行機が付いている……と言った所でしょうか。

- Q/こちらに来て何年ですか?
A/五年になりますね。
- Q/何か不自由なことはありませんか?
A/全然無いですよ。ただ線路に少し近かったかなあ……とは思いますが、夜中、神経を集中して仕事をします。
- Q/すみません。何もしらして来なかったのですが、どんなお仕事を?
A/絹に油絵で肖像画を描いているんですよ。
- Q/と、名刺を出して下さる。突然の訪問を快く受入れて下さり、ひとしきりアンテナ状の風車から電気を取り出し、集める仕組みを説明して下さい。
- Q/ご出身はどちらですか?
A/東京です。豊島区駒込ですが、戦争中は祖父の故郷岩手や宮城県古川などで疎開生活を経験していて、魚を取ったり泥んこで遊んだ経験が僕の原点です。
- Q/戦争を経験しているのですか?
A/父が鉄道技師でシベリア抑留から戻ったのが昭和38年、帰ってきた人の中では一番遅かったんですよ。その間、一人っ子の私は母と二人、貧しかったんです。
- Q/あの頃は日本中が貧しかったんです。
- Q/そうですね。だから何にでも好奇心があったし、何でも自分で作りました。ラジオは勿論、そうそうトランジスタラジオが出ると聞いて保土ヶ谷のソーニエ工場まで行き、見て欲しいと言った断られたりしました。
- Q/その頃から電気に興味を?
A/小学生の時に風車かざぐるま、ほら折り紙で作る風車に、風が無くとも回るように工夫をしました。その時にコンデンサーの凄さを初めて知りました。(店主はコンデンサーの何たるかも知りません)
- Q/その事が現在につながっているのでしょうか?
A/いや、高校は日比谷高校だったのですが(えっ凄いエリート?) いやいや、あの頃は学区制ですよ。
- Q/その頃、町で鉄屑を集めて歩いているおじさんに出会いました。そのおじさんが僕に「金属の違い」を教えてくれたんです。三菱の研究員だったというおじさんでした。その人は「鉄が酸化する時のエネルギーが将来エネルギー源になる」とか話してくれて、それが僕の物の見方を幅広くしてくれたように思います。

- Q/小さい頃の夢は?
A/パイロットか船乗りになりました。でも商船学校に入らずに早稲田大学の教育学部に入学。パン・アメリカン航空でアルバイトをしていました。卒業後、高校の教師を2年程した後、元々好きだった絵の道を目指して多摩美術大学で美術を学びました。中退しましたが、技術の習得を目的にしていたので、そこからは、現在生業としている肖像画家の道を歩いています。
- Q/それで夜中に仕事を?
A/そうですね。僕の仕事は一筆の集中、髪の毛一本にも揺るぎない技術が求められるので……。
- Q/グリーンピア・二本松の丘の上から
風のポイントを探して家を建てました
- Q/随分と風のポイント地点を探したそうですね?
A/そうですね。福島市の建物は風が巻くんです。又二本松市や岳街道などでも見て歩きました。風力発電の場合には山の高さに比例した長さの平野がポイントとされているので、まずグリーンピア・二本松の丘の上からポイントを探し「あ、ここだ」と大玉村を見つけた。そしてここ大山の沖北に決めたんです。
- Q/今自然エネルギーの論議が賑やかですが、風力を選ばれたのは?
A/そうですね。風力が一番コスト的にも自然に對する負荷的にも良いと結論を出しました。自分で設計から施工までやります。
- Q/凄いですね。そういう思いはどこから……
A/マスコミからお断りしています。今、地球規模で温暖化や環境破壊が進んでいて地球はやがて一千年後に閏年がある、一日増えると言われてます。化石燃料、原子力による負荷、化学による汚染、水、空気に対する影響、今が良ければ……という考えではなく未来の子どものために少しでも良い方向に……と風力にこだわったんです。
- Q/今、私も風力の実践家として参加させて頂いています。この村が単に形として新エネルギーを取り上げているのではなく、実際に取り組むための審議会に期待しています。4号線の「ふれあい広場」をグリーンエネルギーの実験場にしてはどうでしょう。
- Q/掲載する写真を撮るに際し、柴田さんの作品も……とお願いすると実に繊細な筆致の掛け軸をお持ち下さいました。学問の神様、菅原道真公を描いたそれは見事な作品でした。お祖父さんがお孫さんに贈る為に依頼された作品だそうです。お祖父さんがその凛とした作品に柴田さんの骨太の生き方と自然に對する敬愛を感じて門扉を閉じました。高い空の風車を見上げると、充電が終わったのか静かに休んで見送ってくれていました。

MAP



オラトリオin未来館

12月16日(日)(二本松市)

国連の国際ボランティア年記念事業「ボランティアフェスティバルinふくしま」が開かれ、県内各地からボランティアの方々が集まりました。式典の後、一昨年初演した朗読と群読、音楽と映像によるオラトリオ「安達太良の水のものがたり」を研修大ホールで再演しました。中村伸太郎先生、安田広志さんをはじめ小学4年生以上の大玉村民27名が熱演し、文化的ボランティアの重要性と可能性が高く評価されTVでも放映されました。



12月17日福島民友から